



オングル島見聞録その1

～第58次日本南極地域観測隊に同行して～
奈良県立青翔中学校・高等学校 教諭 生田依子



なぜ南極へ？～夢は的確な準備を続けると叶う～

- ・保育園のころから、北極や南極へのあこがれていました。
- ・アムンセンの南極探検を本で読み、的確な準備をしていたからこそ、達成できたことに感銘を受けました。
- ・いつか私も南極へ行きたいと思い続けていました。
- ・教員派遣という制度があると知り、南極から特徴のある授業をしたいと、準備をしてきました。
- ・青翔中学校と高校の探究科学で、南極で共同実験をするというプランで採択されました。
- ・私が南極へ行くことで、青翔中学校と高校のみんなの南極への関心が高まり、探究科学の研究がよいものになるようにしたいです。
- ・私の夢の1つは実現しようとしています。

次はみんなの番です！夢に向かっていこう！

タイトルの由来

日本の昭和基地はリュツォ・ホルム湾の東オングル島にあります。

今から60年前、初代南極観測船「宗谷」が日本を出発し、1957年1月29日に第1次南極地域観測隊は、付近一帯を「昭和基地」と命名しました。

祝 日本南極地域観測60周年

～60周年、そして新たな60年へ～

2017年1月29日には、日本が昭和基地を開設して60年を迎えます。

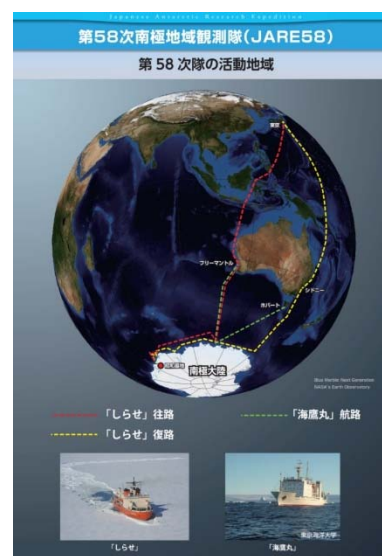
日本が南極観測を開始した1956年は敗戦から11年しかたっていませんでした。しかし、世界の各国が協力して行う学術観測に日本も挑むのだ、これから、日本は科学技術立国としてがんばっていくのだと、当時の国民は熱狂的に応援したのです。

私は、この60周年という記念すべき年に、南極へ派遣されることを誇りに思います。南極との共同研究をしてくれる青翔のみなさん、新たな60周年の第一歩を、一緒にがんばりましょう。

南極への道のり

～オーストラリアから南極観測船しらせ～

2016年11月27日に成田から第58次南極地域観測隊員と同行者計73人は出発しました。飛行機でオーストラリアのブリスベンを経由してパースに到着し、そこからバスで南極観測船しらせの待つフリーマントルまで行きました。(図は国立極地研究所より)ここでさらに7人が乗艦しました。



南極観測船しらせ フリーマントル港から出発

しらせはフリーマントルに停泊中に、日本人学校の生徒たちが激励に訪れ、オーストラリア日本人会からも大歓迎を受けました。しらせと南極地域観測隊への期待の大きさがよくわかりました。12月2日に南極へ出発しました。

